十勝岳

1　概況

火山性地震が下旬にやや増加しましたが、噴煙などの表面現象には変化はありませんでした。62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。

2　地震活動の状況

十勝沖地震後の 26～27 日にグランド火口東部や旧噴火口付近を震源とする地震が一時的にやや増加しましたが、28 日以降は減少し、その後は落ち着いた状態が続いています。十勝岳では過去にも同様の事例が観測されていますが、現時点では噴煙などの表面現象や地殻変動に異常な変化は見られていません。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数

2002～2003 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
地震回数H点	96	47	54	93	58	39	44	60	24	35	26	106
地震回数A点	13	15	11	16	16	9	18	14	9	9	5	40
微動回数H点	0	0	0	0	2	0	1	2	2	0	0	0

3　噴煙活動の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続き、噴煙高度は概ね火口上 200m前後で推移しました。

4　調査観測の結果

9 月 7～12 日に調査観測を実施しました。62-2 火口では高温状態が続いており、その他の火口を含め、前回（本年 6 月）の状況と比べて特段の変化は認められませんでした。

【62-2 火口】

活発な噴気活動が続いており、火口縁では強い刺激臭が認められます。赤外放射温度計*により測定した最高温度は 316℃（測定距離 40m：前回 324℃）で高温状態が依然継続しています。

【62-1 火口】

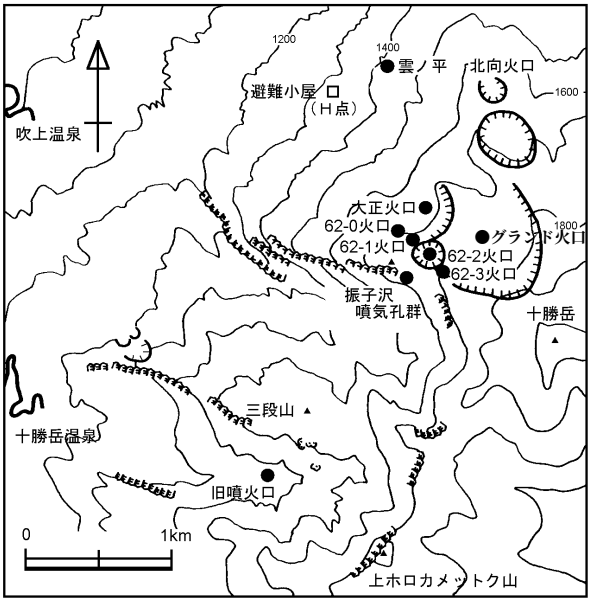
赤外熱映像装置*による観測では新たな熱異常域や範囲の拡大は認められず、黄色の変色域からの噴気は確認できませんでした。前回の観測時に確認された変色域下方の陥没孔では、土砂流入により孔径が縮小し噴気が停止していました。

【62 火口周辺の地熱域】

62-0 火口、62-3 火口、振子沢噴気孔群などでは弱い噴気活動と沸点程度の地熱活動が続いています。

【大正火口】

東側火口壁上部のやや活発な噴気孔は、前回と同様に周辺に新鮮な硫黄昇華物が付着していました。噴気の状況や変色域等に大きな変化は見られませんでした。

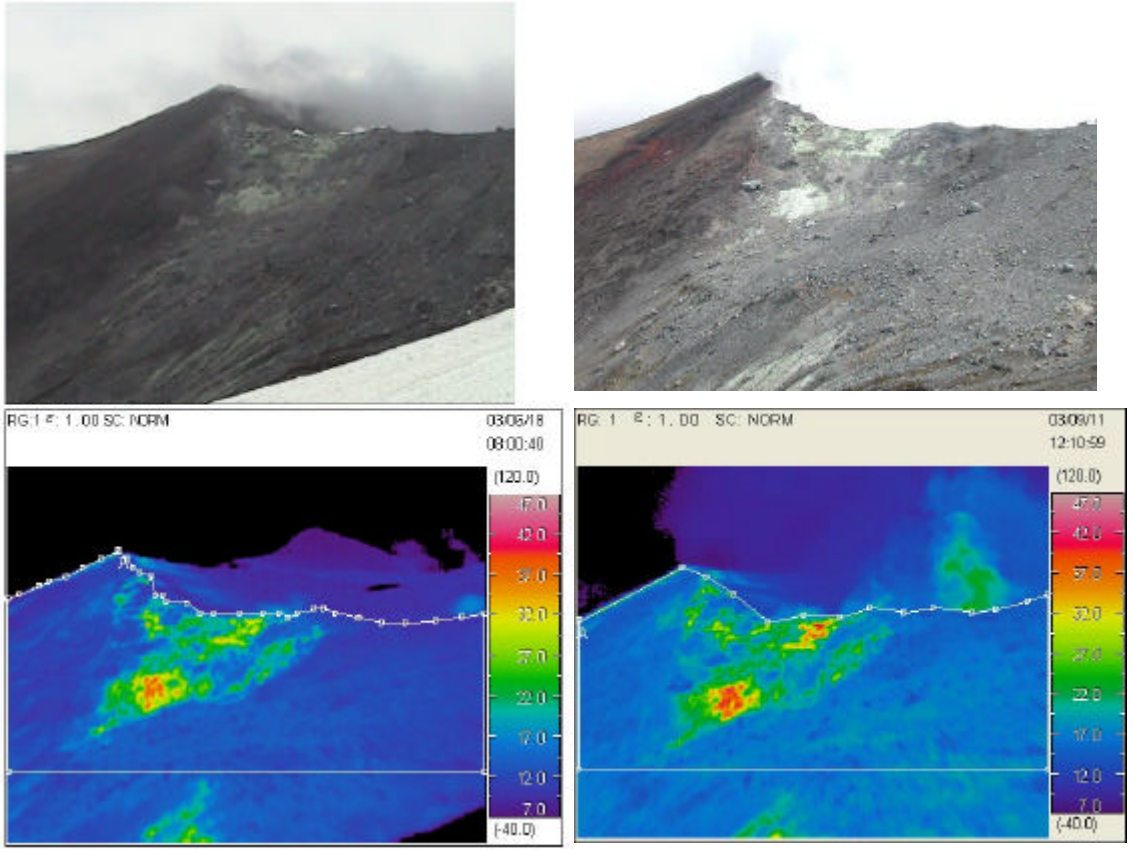


十勝岳火口周辺図

【旧噴火口】

一面、黒灰色～くすんだ黄色に変色しており、沸点程度の地熱活動と温泉の湧出が続いています。

＊　赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度（放射率）が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9～1.0 に設定しています。



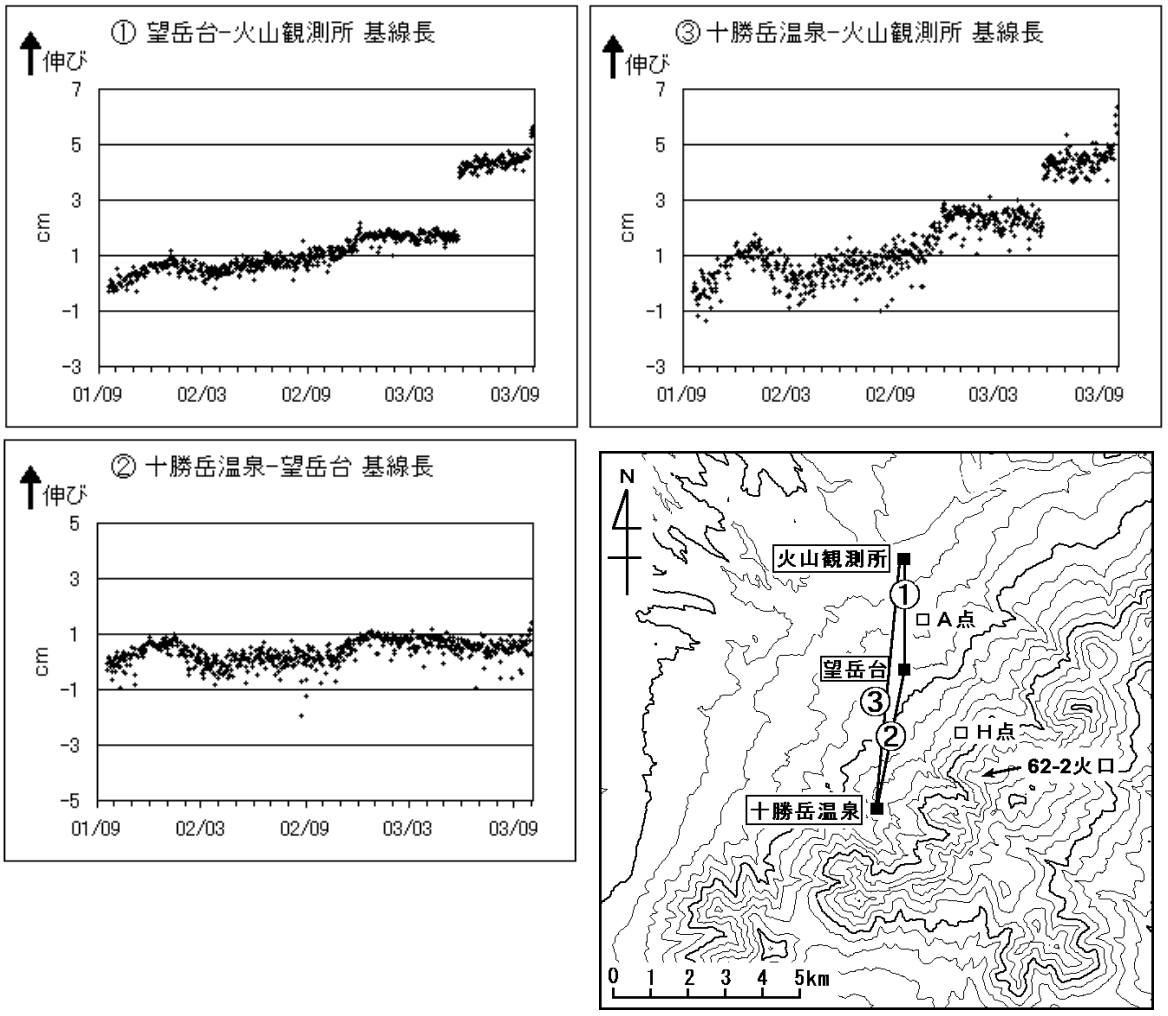
62-1 火口の赤外熱映像

左：2003 年 6 月、右：2003 年 9 月

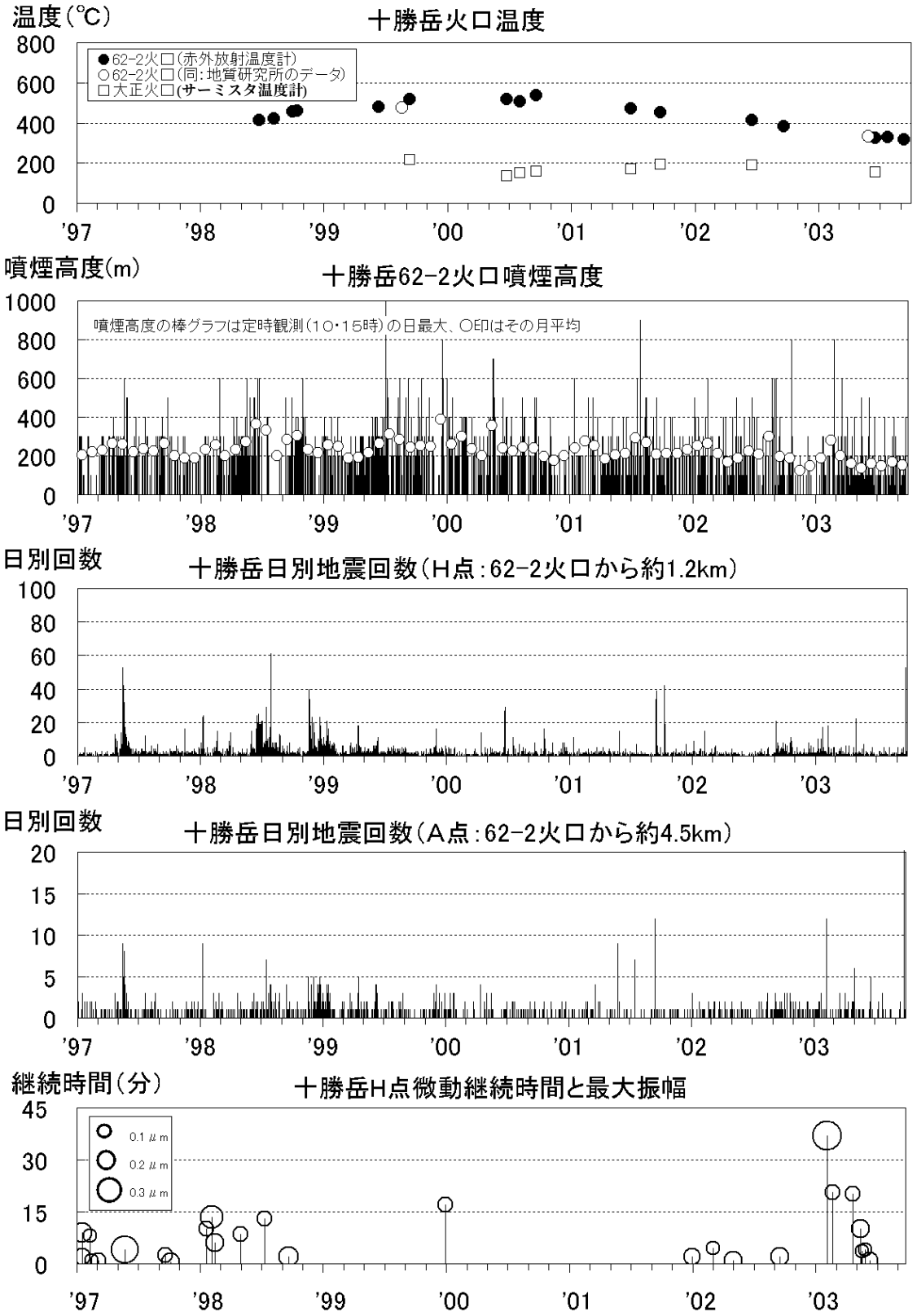
緑～赤で表現されている地熱域に大きな変化はありません。

5　地殻変動の状況

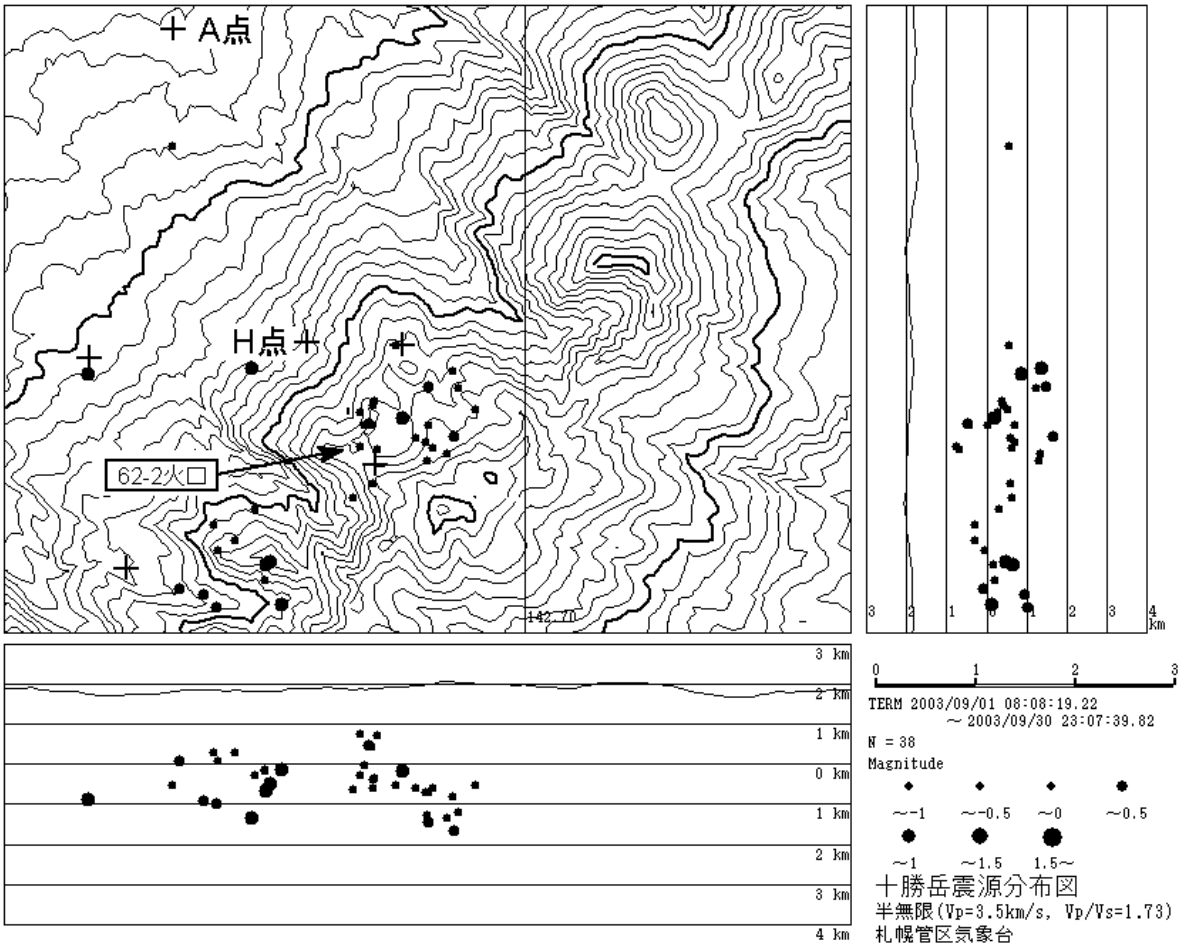
ＧＰＳ観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。



十勝岳基線長変化（2001 年 9 月 18 日～2003 年 9 月 30 日）



十勝岳火山活動経過図（1997 年 1 月 1 日～2003 年 9 月 30 日）



十勝岳震源分布図（2003 年 9 月 1 日～9 月 30 日）＋印は地震観測点